

2024 年度秋学期授業評価アンケート集計結果について

2025 年 9 月 19 日

学生部長

設問について

設問は全部で 10 あるが、問 1 から問 9 までは 4 つのカテゴリー、「A：履修者の自己評価」「B：シラバスについて」「C：担当者と授業について」「D：授業の成果について」に分類される。これに加えて、問 10 として自由記述を設けている。これにより、幅広く学生の意見を聴取することを意図している。

この結果をもとに、科目担当者はシラバスの振り返り項目にレスポンスを記入することになっている。

設問区分		設 問
A	問 1	私は、自主的かつ意欲的に取り組んで、この授業を受けた。
	問 2	この授業の授業時間外の学習時間（授業 1 回ごとの平均） ① 4 時間以上 ② 3～4 時間 ③ 2～3 時間 ④ 1～2 時間 ⑤ 30 分～1 時間 ⑥ 30 分未満
B	問 3	私は、この授業を履修する際、何を学習するかを理解するために、シラバスを読んだ。
	問 4	担当者は、シラバスで授業の目標や計画、授業の評価方法を適切に示していた。
C	問 5	授業は担当者の教え方（説明の仕方や話し方）は適切だった。
	問 6	授業の内容はわかりやすかった。
	問 7	授業の進度は適切だった。
	問 8	授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行い、適切な助言を与えたり質問に答えたりしてくれた。
D	問 9	総合的にみて、この授業は私にとって有益だった。

自由記述	問 10	授業をよりよくするために、担当教員やこの授業について良かった点、改善すべき点があれば書いてください。
------	------	--

設問に対する回答（問 1 および問 3～問 9）は、以下の選択肢から選ぶように求めている。

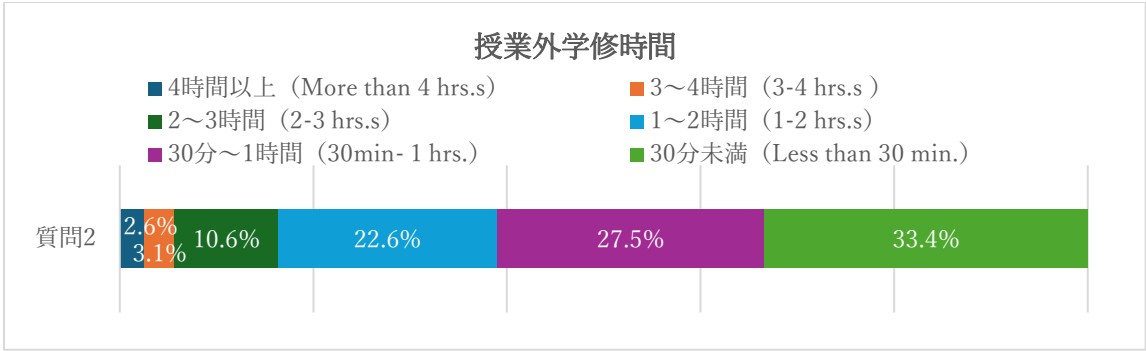
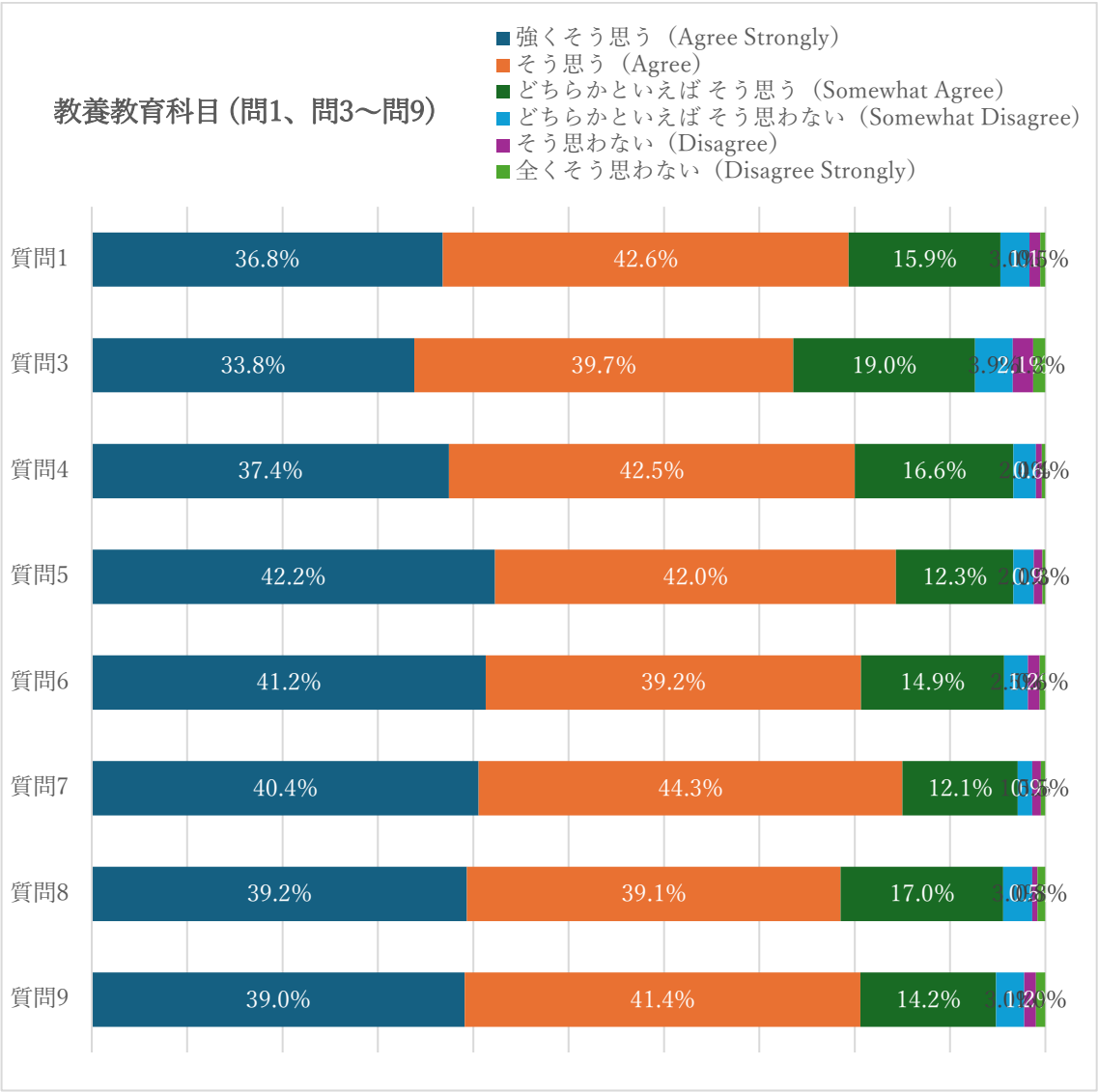
回答内容	マークシートの番号
強くそう思う（Agree Strongly）	①
そう思う（Agree）	②
どちらかといえば そう思う（Somewhat Agree）	③
どちらかといえば そう思わない（Somewhat Disagree）	④
そう思わない（Disagree）	⑤
全くそう思わない（Disagree Strongly）	⑥

以下、分析は「教養教育科目」「専門教育科目」「言語教育科目」のカテゴリーごとに設問の問 1～問 9 について個別に行う。問 10 については自由記述のため、本分析では割愛する。

分析結果によるコメントを最後に全体のまとめとしての総評を記載する。

教養教育科目について

科目登録人数 1751 件のうち、有効回答の割合は 75.2%（昨年度 70.0%、今年度春学期 74.2%）。以下、設問ごとに集計結果の分析を行う。



問1 私は、自主的かつ意欲的に取り組んで、この授業を受けた。

肯定的（「強くそう思う」から「どちらかといえばそう思う」まで）な回答が全体の 95.3%を占めており、回答したほとんどの受講生が自主的かつ意欲的に取り組んでいることがわかる（昨年度 95.4%、今年度春学期 95.0%）。

問2 この授業の授業時間外の学習時間

教養教育科目の場合、そのほとんどが1科目2単位であるので、各授業に対して求められる授業外学習時間は4時間である。4時間以上と回答しているのは、全体の 2.6%にとどまっている（昨年度 4.9%、今年度春学期 2.4%）。

問3 私は、この授業を履修する際、何を学習するかを理解するために、シラバスを読んだ。

肯定的な回答が全体の 92.5%であり、シラバスの事前理解の必要性は十分に学生たちに浸透しているといえる（昨年度 93.1%、今年度春学期 90.7%）。

問4 担当者は、シラバスで授業の目標や計画、授業の評価方法を適切に示していた。

肯定的な回答が全体の 96.5%であり、問題なく当該設問に対しては対応できていると思われる（昨年度 96.3%、今年度春学期 95.2%）。

問5 授業は担当者の教え方（説明の仕方や話し方）は適切だった。

肯定的な回答が全体の 96.5%と、当該設問については問題なく対応できていると判断する（昨年度 96.4%、今年度春学期 95.1%）。

問6 授業の内容はわかりやすかった。

肯定的な回答が全体の 95.3%であり、当該設問に対して十分に対応できていると判断する（昨年度 94.3%、今年度春学期 92.6%）。

問7 授業の進度は適切だった。

肯定的な回答が全体の 96.8%であり、受講生のほとんどが「適切」であると判断しているといえる（昨年度 96.3%、今年度春学期 95.5%）。

問 8 授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行い、適切な助言を与えたり質問に答えたりしてくれた。

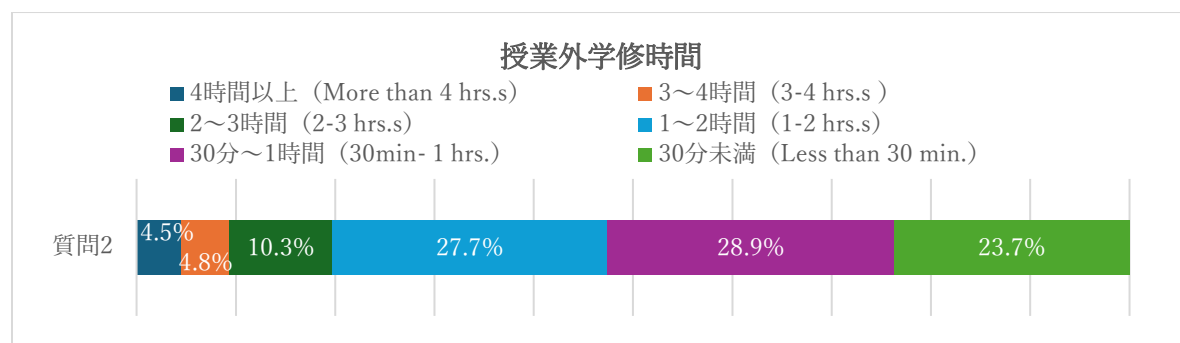
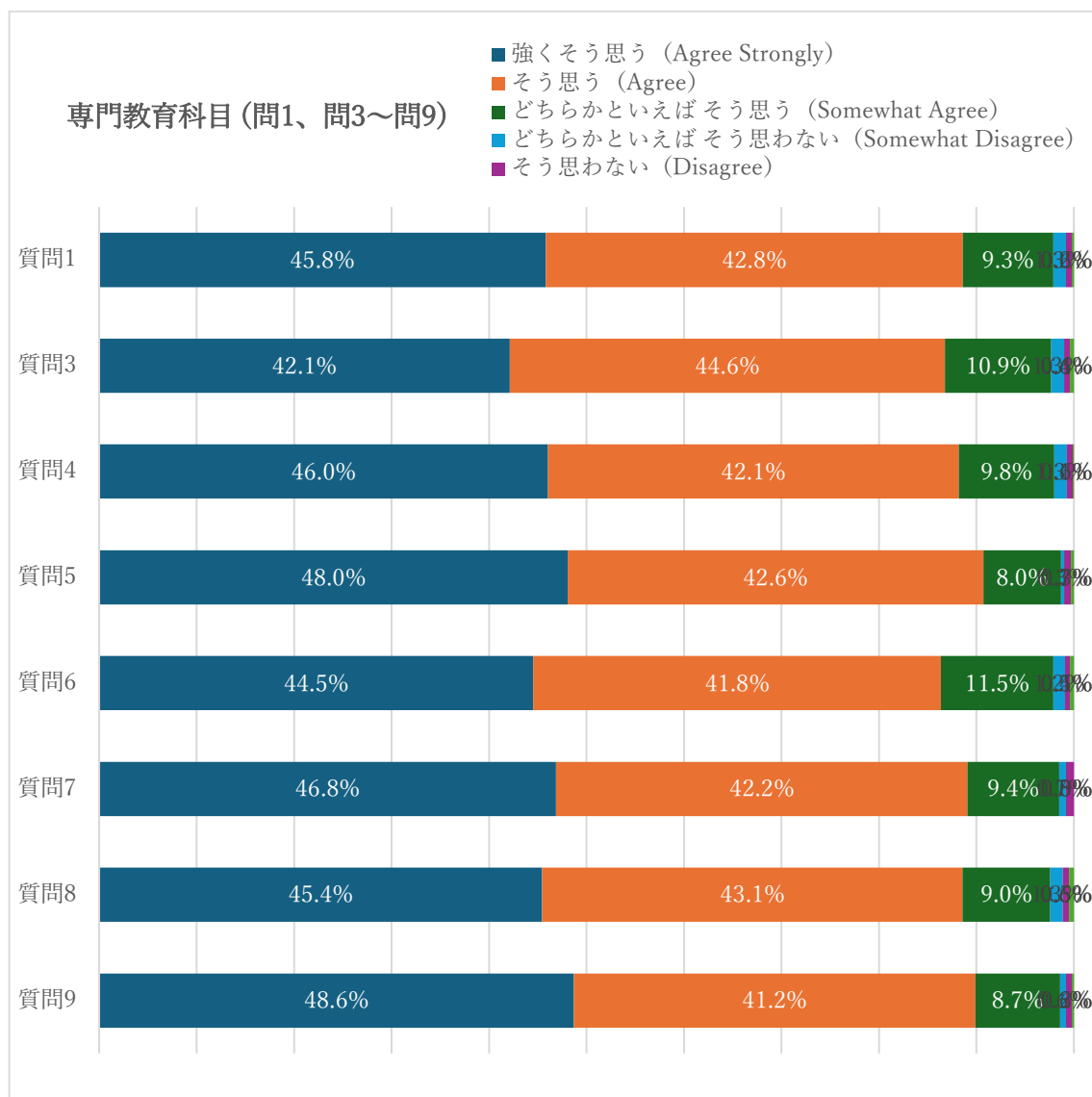
肯定的な回答が全体の 95.3%であることから、授業担当者は授業内外において適切な教育環境の維持に努め、その成果が表れていると思われる（昨年度は 95.1%、今年度春学期 91.8%）。

問 9 総合的にみて、この授業は私にとって有益だった。

肯定的な回答が全体の 94.6%であり、学生にとって適切な授業提供が行われていると判断できる（昨年度 95.8%、今年度春学期 92.6%）。

専門教育科目について

科目登録人数 1396 人のうち、有効回答の割合は 71.0%（昨年度 65.5%、今年度春学期 70.0%）。以下、設問ごとに集計結果の分析を行う。



問1 私は、自主的かつ意欲的に取り組んで、この授業を受けた。

肯定的（「強くそう思う」から「どちらかといえばそう思う」まで）な回答が全体の 97.9% を占めており、回答したほとんどの受講生が自主的かつ意欲的に取り組んでいることがわかる（昨年度 98.2%、今年度春学期 97.5%）。

問2 この授業の授業時間外の学習時間

教養教育科目の場合、そのほとんどが 1 科目 2 単位であるので、各授業に対して求められる授業外学習時間は 4 時間である。4 時間以上と回答しているのは、全体の 4.5% にとどまっている（昨年度 6.8%、今年度春学期 5.6%）。

問3 私は、この授業を履修する際、何を学習するかを理解するために、シラバスを読んだ。

肯定的な回答が全体の 97.6% であり、シラバスの事前理解の必要性は十分に学生たちに浸透しているといえる（昨年度 96.7%、今年度春学期 97.2%）。

問4 担当者は、シラバスで授業の目標や計画、授業の評価方法を適切に示していた。

肯定的な回答が全体の 97.9% であり、問題なく当該設問に対しては対応できていると思われる（昨年度 98.2%、今年度春学期 98.1%）。

問5 授業は担当者の教え方（説明の仕方や話し方）は適切だった。

肯定的な回答が全体の 98.6% と、当該設問については問題なく対応できていると判断する（昨年度 97.2%、今年度春学期 97.3%）。

問6 授業の内容はわかりやすかった。

肯定的な回答が全体の 97.8% であり、当該設問に対して十分に対応できていると判断する（昨年度 96.8%、今年度春学期 96.1%）。

問7 授業の進度は適切だった。

肯定的な回答が全体の 98.4% であり、受講生のほとんどが「適切」であると判断しているといえる（昨年度 96.8%、今年度春学期 97.5%）。

問8 授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行い、適切な助言を与えたり質問に答えたりしてくれた。

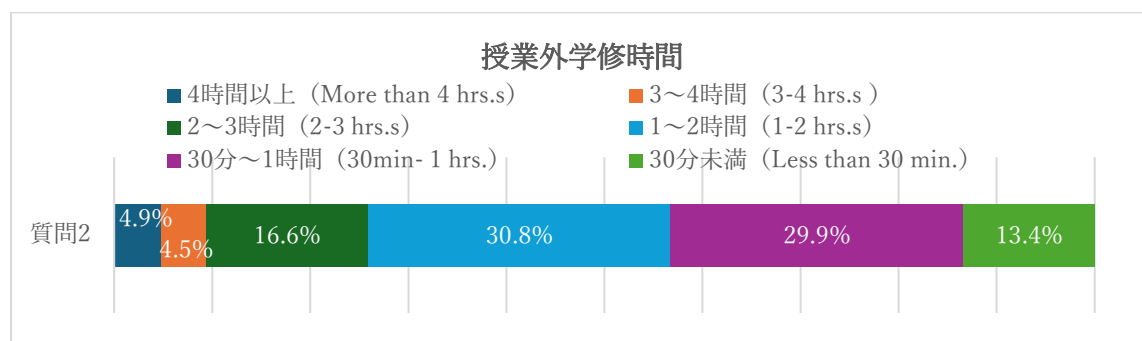
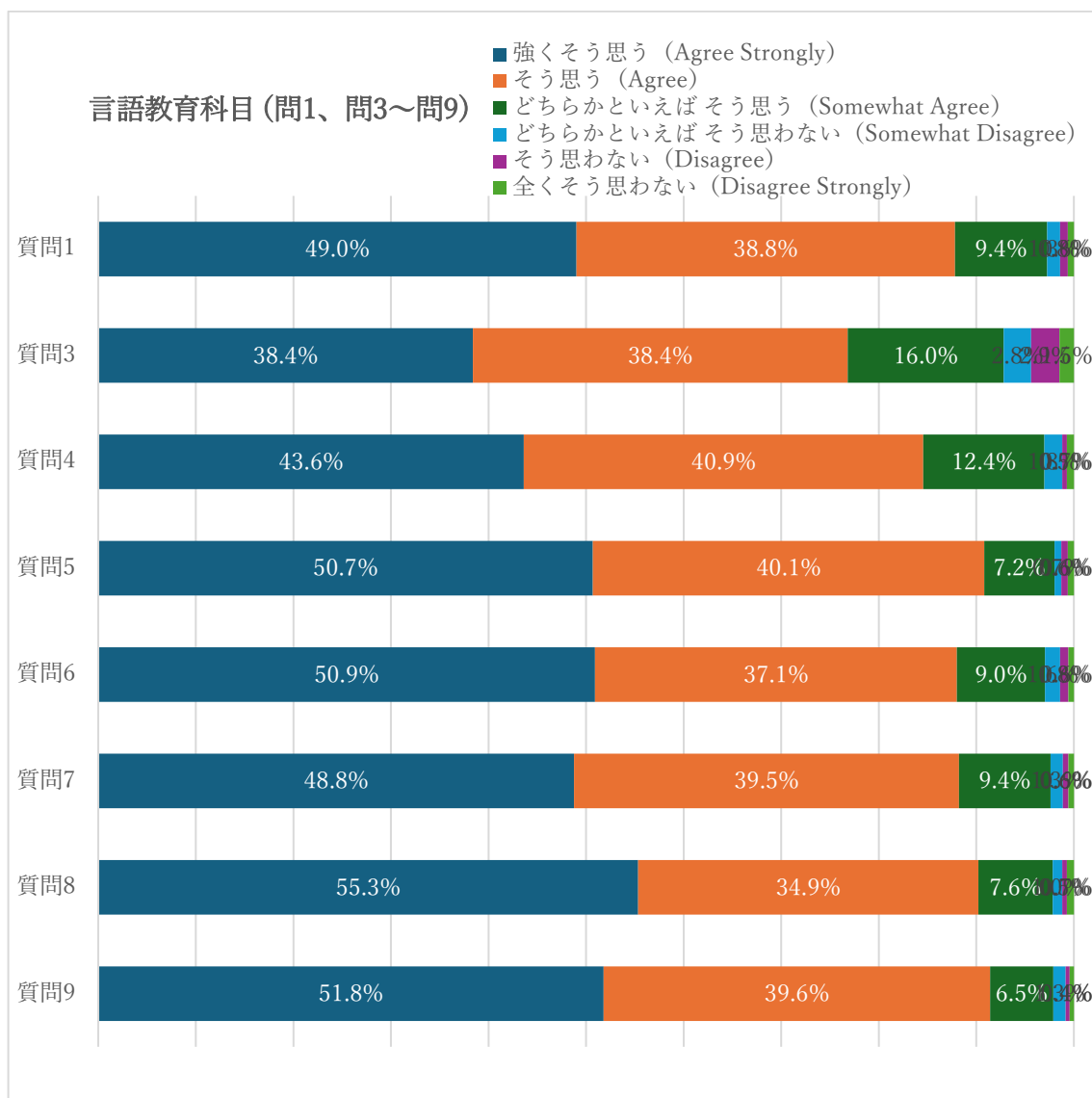
肯定的な回答が全体の 97.5%であることから、授業担当者は授業内外において適切な教育環境の維持に努め、その成果が表れていると思われる（昨年度 96.5%、今年度春学期は 95.5%）。

問9 総合的にみて、この授業は私にとって有益だった。

肯定的な回答が全体の 98.5%であり、学生にとって適切な授業提供が行われていると判断できる（昨年度は 97.1%、今年度春学期は 97.4%）。

言語教育科目について

科目登録人数 1680 人のうち、有効回答の割合は 73.6%（昨年度 75.1%、今年度春学期 75.4%）。以下、設問ごとに集計結果の分析を行う。



問1 私は、自主的かつ意欲的に取り組んで、この授業を受けた。

肯定的（「強くそう思う」から「どちらかといえばそう思う」まで）な回答が全体の 97.2% を占めており、回答したほとんどの受講生が自主的かつ意欲的に取り組んでいることがわかる（昨年度は 97.4%、今年度春学期 97.8%）。

問2 この授業の授業時間外の学習時間

言語教育科目は一部授業を除き 1 科目 1 単位であるので、1 回の授業に求められる授業外学習時間が 1 時間と定められている。1 時間以下の学習時間と回答しているのは全体のうち 43.3% であることから、約 6 割の学生が十分な学習時間を確保していると思われる。

問3 私は、この授業を履修する際、何を学習するかを理解するために、シラバスを読んだ。

肯定的な回答が全体の 92.8% であり、シラバスの事前理解の必要性は十分に学生たちに浸透しているといえる（昨年度 93.3%、今年度春学期 93.0%）。

問4 担当者は、シラバスで授業の目標や計画、授業の評価方法を適切に示していた。

肯定的な回答が全体の 96.9% であり、問題なく当該設問に対しては対応できていると思われる（昨年度 97.2%、今年度春学期 97.4%）。

問5 授業は担当者の教え方（説明の仕方や話し方）は適切だった。

肯定的な回答が全体の 98.0% であり、当該設問については問題なく対応できていると判断する（昨年度 97.1%、今年度春学期 97.5%）。

問6 授業の内容はわかりやすかった。

肯定的な回答が全体の 97.0% であり、当該設問に対して十分に対応できていると判断する（昨年度 96.6%、今年度春学期 97.0%）。

問7 授業の進度は適切だった。

肯定的な回答が全体の 97.7% であり、受講生のほとんどが「適切」であると判断しているといえる（昨年度 96.8%、今年度春学期 97.0%）。

問8 授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行い、適切な助言を与えたり質問に答えたりしてくれた。

肯定的な回答が全体の 97.8%であることから、授業担当者は授業内外において適切な教育環境の維持に努め、その成果が表れていると思われる（昨年度 97.4%、今年度春学期 97.6%）。

問 9 総合的にみて、この授業は私にとって有益だった。

肯定的な回答が全体の 97.9%であり、学生にとって適切な授業提供が行われていると判断できる（昨年度 97.9%、今年度春学期 97.6%）。

総 評

有効回答率は7割を超え、専門教育科目においては、前年度春学期比で5～6ポイントの増加となった。2017年から導入した調査システム「E2Survey」に未回答者に対して回答を促すメールの自動配信機能が備わっていることに加え、とりわけ授業内での呼びかけが功を奏したと考えられる。春学期と比べると、回答者数は1割程度減っているが、これは秋学期から海外留学を開始する学生が多く、授業の履修者が総体として少なくなるためと考えられる。

科目種別に関わらず、いずれの設問においても肯定的な回答が9割を超えるのは、本学の例年の傾向に沿っている。本学の授業の質は学生からは一定の評価を得ていると言っている。ただし、レポート作成や試験の準備で慌ただしい学期末に、全履修科目についてアンケートを実施していることが、お座なりの回答姿勢を招いている可能性は否定できない。アンケート結果の信頼度は常に検討課題である。

言語教育科目の授業外学習時間については前学期分同様に学年別に分析を行なった。一部授業を除き1科目1単位であるので、1回の授業に求められる授業外学習時間は1時間と定められている。1年生および2年生では「30分～1時間」「1～2時間」という回答があわせて6割程度あることから、十分かつ適切な授業外学習が行われていると言える。対して、3年生および4年生では「2～3時間」「3～4時間」「4時間以上」という回答が顕著に増えている。

これは、高年次すなわち中・上級者向けの言語教育科目の質的な難化によるものと推測される。現行のカリキュラムでは習得水準の高低に関わらず、認定単位数は1単位と定めているが、この授業外学習時間量の現状をみると、中・上級の授業では1単位相当以上の学習が行われている可能性が指摘されうる。中・上級の言語教育科目の2単位化、あるいは専門科目化について議論を始めるきっかけとして、この調査結果を活用するとともに、より詳細な分析を行なっていきたい。なお、少数ながら既に存在する2単位の言語教育科目（Communication I/II/III/IV 含む）は分析対象から除外した。

2024年度秋学期 言語教育科目(1単位)授業外学習時間

